

「本店!本店!大変です!3号機が爆発しました!」

正に百聞は一見に如かずとはよく言いました。
見物人のようにしている経営者たちを腹立たしい気持ちで私は見ました。
あの体質が事故を防ぐ予防に投資をせずに事故を引き起こしたのではないのでしょうか。
井戸川克隆(元福島県双葉町長)

故吉田昌郎元所長の緊迫した声を覚えている人は多いだろう。福島第一原発事故の対応をつぶさに記録した第一級の映像資料「東電テレビ会議映像」が長編映像としてまとめられた。

本作品は、非営利メディアOurPlanet-TVが「福島映像祭2013」で上映するために、独自編集した報道ドキュメントである。映像は、福島オフサイトセンター、東電本店、福島第一原発、福島第二原発、柏崎刈羽原発を結ぶテレビ会議の分割画面のみ。しかし緊迫した現場の声には、どんな映像よりも臨場感と迫力がある。

使用した映像は、既にインターネット上には公開されているものだ。その映像は細切れな上、誰が発言しているかが分からないという問題があった。本作品では、なるべく状況がわかるように、基本的な情報を挿入した。2011年3月12日から15日までの3日間、福島第一原発で何が起きていたのか。あの時間、あの原点に立ち戻る体験を共有したい。



前編 (107分)

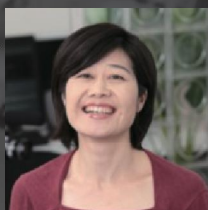
3月12日深夜22時59分から13日までの約25時間を1時間47分に編集。3月12日は午後3時36分に1号機が水素爆発し、原発周辺地域の放射線量は既に大幅に上がっていた。10キロ圏内の住民へ出されていた避難指示が、午後6時半すぎ20キロに拡大。録画はこの日の22時59分、東電の武黒フェローが官邸から東電本店に戻り、民主党政権に対する苦言を述べる場面からはじまる。

後編 (99分)

後編は3月14日の24時間を1時間39分に編集。東京では、計画停電が予定されていた14日。この日は、3号機が水素爆発し、更に2号機が危機的な状況に陥る。ベントには、水を通してベントするウェットベントと水を通さないドライベントがあるが、2号機では、大量の放射性物質を放出する恐れのあるドライベントをせざるをえない状況に追い込まれて行く。夕方を超えると東電本店の動きが激しくなり、作業員の撤退問題が浮上する。

嘆息、憤怒、苦笑に驚愕…。映像を観る会場には観客の様々な声が交錯します。
初めて知る事実が圧倒されるでしょう。そして、こう思うに違いありません。
その当時、なぜ私たちにその情報が伝えられなかったのか、と。
木村英昭(ジャーナリスト)

トークゲスト



白石草さん
OurPlanetTV代表。
一橋大学大学院地球社会研究科客員准教授。
早稲田大学大学院ジャーナリズムコース講師。



木村英昭さん
朝日新聞記者。
主著・共著は『官邸の一〇〇時間』
『プロメテウスの罠』など。

上映日程

4/12 土

第1部 17:00~18:47 (107分) 休憩(18分) 第2部 19:05~20:44 (99分)
トーク 20:45~21:45 (60分)

4/13 日

第1部 10:00~11:47 (107分) 休憩(18分) 第2部 12:05~13:44 (99分)
トーク 13:45~14:45 (60分)